

[2] 古代への憧憬—かたちと文様 *Admiring Ancient Eras - Forms and Patterns*

明治初期にはじまる古器旧物の調査、保存の気運を受けて、明治期には中国のさまざまな古代銅器を模した形状の金工品が数多く創出されるが、それらはやがて明治10年代から20年代にかけて、いかにも王政復古の時代にふさわしく古風でいかめしい性格のものとして、宮中に数多くとりいられ、同様の形状の七宝や陶磁作品とともに諸所を彩ることになる。

また、同じく古器旧物の再発見を契機に復古的文様としていつの頃からか創出され、明治初期には「古代文様」と呼ばれた唐花や宝相華などのいわゆる正倉院文様も、明治10年代までは海外向け輸出品や内外の博覧会出品作にひろく用いられたものであったが、その後は、王者の象徴である龍や鳳凰のモチーフとともに、もっぱら帝室向けの品々に多くあしらわれるようになっていった。



10—秦蔵六《銅鼎形花瓶》一点
明治11年(1878) 金工
D. 24.0×H. 42.5

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治の宮中デザイン
—和中洋の融和の美を求めて
三の丸尚蔵館企画展図録 No.32

編集：宮内庁三の丸尚蔵館
制作：艸藝社
翻訳：横溝廣子
発行：財団法人 菊葉文化協会
平成15年9月27日

The Imperial Court Design – searching for harmony
between the Japanese, Chinese and Western styles
Sannomaru Shōzōkan Exhibition Catalogue No.32

Edited by the Museum of the Imperial Collections, Tokyo
(Sannomaru Shōzōkan)

Printed by SOGEISHA, Ltd., Japan
Translated by Hiroko YOKOMIZO
Published by Kikuyō Cultural Association
Issued on September 27, 2003

Copyright ©2003, Museum of the Imperial Collections, Japan